



今日からできるエコロジー



環境みらい館の『メダカの里親』制度

学校・幼稚園・保育園等の施設で、子供たちの観察用に『メダかを飼育』してみませんか。
飼育を希望される方は下記の、『環境みらい下関』事務局までご連絡下さい。

環境みらい館のメダカは、地元の野生の『クロメダカ』です。市販のメダカ、外来種のヒメダカ等と一緒に育てるのはやめましょう。

飼育する容器は、飼育専用の水槽があれば充分ですが、ポリ容器や、発泡スチロールの箱、プランター（底の穴を塞いで使う）、陶器など何でもかまいません。出来るだけ水面が広い容器がよいです。

観 察 池



しものせき環境みらい館/ご利用案内

開館時間 10:00～17:00まで
休館日 月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)
年未年始(12月28日から1月4日)
サンデンバス停「垢田」「稗田中央」より徒歩 約5分
電話 (083) 252 7220 FAX (083) 252 7222
<http://www.kankyo-mirai.jp> E-mail eco@kankyo-mirai.jp



『メダカ』の飼い方

飼育する容器は、飼育専用の水槽があれば充分ですが、ポリ容器や、発泡スチロールの箱、プランター（底の穴を塞いで使う）、陶器など何でもかまいません。出来るだけ水面が広い容器がよいです。

飼育容器には、底に川砂、鹿沼土等と水草を入れると、餌を与える量が少なくてすみます。

川砂、鹿沼土等と水草を入れ、冬の冬眠の環境を整えてやり、また、縄張り争いをします。水草を入れて、ストレスで病気になるのを防ぐとともに、酸素の供給と餌となるバクテリアの発生を促進させます。

成魚には、水道水を一晩汲み置きして、カルキ抜きをした水で充分ですが、孵化間もない稚魚には、数日間カルキ抜きをした水道水や、井戸水、池の水などを使います。

餌は市販のメダカ用を使います。稚魚に与える時は細かい粉にして与え、糸ミミズのような動物性の餌を与えすぎると、病気になることがあります。土と水草があれば、それほど餌を与える必要はありません。

容器に、水が準備できたらメダカを入れますが、寒い時など、メダカを運んできた水と、準備した水の温度差が大きい時は、飼育容器の水温に近づけてから入れてください。

日照時間13時間以上、水温が20度以上（4月中旬から10月末頃まで）になると産卵を始めます。毎日10個～30個、産卵します。（水温25～30、日照時間13時間以上「人口の連続光でもよい。」が飼育、繁殖に最良です。）

採卵には、細かい繊維状の根を持つ水草（ホテイアオイなど）やシュロの繊維、毛足の長い毛糸などを丸めて入れてもよいです。

ホテイアオイやカナダ藻（何れも外来種）等の外来種を使う場合は河川などに流れ出ないように注意してください。

産卵から1週間くらいで水草等を取り出し（卵だけを取り出してもよい。）親などの成魚が入っていない稚魚専用の容器に移して、半日くらい日当たりのある場所に置きます。

真夏の水温の高い時は、その日から孵化が始まります。

孵化した稚魚には、孵化直後から細かく粉にしたメダカの餌を充分に与えてください。ただし、与えすぎると水が汚れて死んでしまいますので、食べ残しのない程度にしてください。水が汚れた場合には、適度にすくい取った後に水を補給してください。

産卵直後の卵や、孵化したばかりの稚魚は親などの成魚に食べられますので、10ミリ程度になるまで、成魚と別の容器にしてください。

このメダカは地元の野生のメダカ（クロメダカ）です。他の地域のメダカや市販のメダカ、外来種のヒメダカ等と一緒に育てないでください。これらのメダカは河川に放流しないでください。

メダカは泳ぐ力が弱く、河川（地域）ごとに固有の進化をした可能性が高く、遺伝子の交雑が心配されています。